

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 6. 16
No.18 文責 荒木

失敗を経て②

伊藤先生にばかり「失敗談」を公表させ、恥ずかしめるわけにはいかないので、私も過去の失敗談をカミングアウトします。

新採1年目。白田先生と同じように、私も2年生を担当しました。それまでの長い講師経験はありましたが、2年生を持つのは初めてでした。そもそも私は、中学校の教員を目指していたので、低学年はもう「異次元の世界」です。子どもたちは、次から次へと「先生」「先生」とやってきます。立ち歩きや子ども同士のトラブルは日常茶飯事。放課後は教育相談や保護者対応にあけくれました。（山田先生こんな状態でしたよね？その頃からです。毎晩吞まずにはいられなくなったのは👉）

学級崩壊状態のクラスを心配し、先輩方が様子を見に来てくれました。そんな中で、当時特別支援学級の担任をしていた富樫綾子先生からいただいたアドバイスは、いろんなものを背負い込んで、いっぱいいっぱいだった私の心をフッと軽くしてくれました。

担任の先生は父親になりなさい。周りの支援員の先生に母親役をしてもらいなさい。父親はどっしりと構えて、全体を動かすことに務める。気になる児童のことは、母親役である周りの先生に任せる。全てを一人で背負い込まないこと。

10年前の出来事です。ジェンダーフリーの今のご時世には、ちょっと合わないかもしれませんが。でも、言いたいことは伝わりますよね。私にとっては、宝物の言葉です。

白田先生のクラスをのぞきに行きました。写真のような光景が広がっていました。いいですね。白田先生、ちゃんと父親しています（あれっ、これセクハラになりますかね）。土田先生、黒坂先生、母親役ありがとうございます。授業の課題がよかったのももちろんですが、みんな落ち着いて学習しています。



裏面に「山形教育」から依頼があり、当時の様子をふり返って書いた拙い文章を載せます。読者に保護者がいるかもしれないので、かなりマイルドに表現しましたが…察してください。